

生徒が進んで学び、 多面的に思考する地理授業研究

岐阜県立各務原西高等学校
伊縫 正人

<目次>

- ① 本発表の要点
- ② 年間指導計画
- ③ 単元指導計画
- ④ 学習指導案 単元名「現代世界の農業の現状と課題」
- ⑤ 資料1 本時のワークシート
- ⑥ 資料2 岐阜県図書館資料の活用の1例
「資料1 外南洋ニ於ケル法人拓殖事業状況図」
「地図読み取りのための資料」
- ⑦ 資料3 FAOSTATを利用した資料作成
「資料2 1939年と2010年の統計比較」
- ⑧ 資料4 多面的に思考させる資料の作成
「資料4 東南アジア最大のパーム油製造会社」
「資料5 アブラヤシプランテーションの開発」
「資料6 パーム油生産国と消費国」
- ⑨ 資料5 本実践後の生徒の変容
- ⑩ 資料6 本実践後の評価問題例

【発表の要点】

1. 年間指導計画・単元指導計画

年間指導計画と単元指導計画に「単元を貫く課題」を設定し、その単元を通じて生徒にどのような力をつけさせ、どのような思考のできる生徒を育成するのか明らかにする。

2. 学習指導案

- ①新学習指導要領の目標にある、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察する授業を展開するために、本時の導入段階では歴史的事象を取り扱った。
- ②新学習指導要領では「様々な地図と地理的技能」について、様々な時代や種類の地図を活用し、統計などと共に統合的に取り扱うことが求められているため、本時の展開1では歴史的な地図を当時の統計と共に考察し、また現在の統計とも比較することで、プランテーション農業の特徴について追究する活動を計画している。
- ③事象について多面的・多角的に捉え思考することが地理歴史科では必要とされるため、本時ではプランテーション農業の様々な側面の資料を活用して、多面的に捉える授業を展開している。
- ④生徒が主体的に学習するためには、**1. 生徒の現実とのギャップ、2. 生徒の身近な世界の追究、3. 生徒にとって新鮮味のある教材や教具の活用、4. 既習内容から生まれた常識に対する違った視点からの追究、5. 生徒自身が学ぶ価値があるまたは学ぶ必要性があると感じる教材や授業内容**があると私は考える。本時では、導入段階で太平洋戦争の開始は真珠湾攻撃が最初ではない点（上記1の視点）、展開段階ではパーム油製品が世界の多くで使われているにもかかわらず、貧しい生活を強いられる労働者（上記4の視点）。また日本では多くの製品でパーム油が使用されているにも関わらず、世界の消費国の中では低位に位置する事（上記2の視点）などから、生徒が主体的に学習できるように授業の展開を計画している。
- ⑤生徒が主体的に活動し、交流しながら授業を展開するために、本時の展開1ではグループ交流を、展開2では教室内の資料毎に分かれた探究や追究の活動を計画している。
- ⑥生徒が自己の高まりを認識する自己評価・他者評価を毎時間連続してとっていくのは、学習進度上困難な場合があるため、なるべく簡素な形で自己評価できるようにワークシートへ自己評価欄を添付した。

3. 評価問題例

高校教育においても義務教育段階で求められるような観点別の評価が求められるようになってきている。ペーパーテストに重点を置くことは致し方ないとしても、ペーパーテスト内で観点別評価を行えば、各授業での様々な評価との相乗効果により、より精度の高い生徒評価へつなげることができると考えて、観点別評価問題例を作成した。

教科	地理歴史	科目	地理B	岐阜県立各務原西高等学校
学年	2	単位	2	
目標		現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
到達目標に向けての具体的取り組み		<p>1 事象を追究する際には、「なぜ」「どうして」という背景を追究させることで、多面的に考察ができるようにさせる。</p> <p>2 現代世界の事象には歴史的な軸と、他の地域、地形等の空間的な軸の2軸があり、その2軸を連結させることで、論理的に考察をし、まとめることができるようにさせる。</p> <p>3 ペアでの交流、同意見を持つ者同士や異なる意見を持つ者同士の交流などを積極的に行い、自らの意見だけでなく、相手の意見を聞き、その結果どう考えるのか、また異なる視点や意見を聞くことで多角的に事象を判断し、追究することができるようにさせる。</p> <p>4 通常の授業ではポートフォリオを活用した自己評価を行うとともに、発表や交流、プレゼンテーションの場面では相互評価を導入して、評価の手段を多方面に求めるとともに、定期考査では、観点別評価を行えるような問題作成をする。</p>		
月	単元			
	単元と項目	時数	学習の目標(ねらい)及び学習内容	評価規準
第1部 さまざまな地図と地理的技能	【単元を貫く課題】 生徒が地図の活用をすることで、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身に付ける。			
	【単元を貫くMQ】 友達に自分の家までの案内文を贈ろう。			
	1章 地理情報と地図 1節 現代世界の地図	1	自分の家から学校までの案内図をつくる学習の過程を通して、地図にはどのような情報をのせると、読み手にうまく伝わるのか考えながら意欲的に取り組める。	【関】 日常生活の情報を進んで地図上に表現し、地理情報と地図に対する関心を高め、課題意識をもって取り組むことができる。
	2節 地図の種類とその利用 1 地球儀とさまざまな地図	1	大航海時代の正角図と現在の正距方位図法の特性を学ぶ学習を通じて、その時代の人々に要求された地図の特徴に気づき、目的に応じてどのような地図を利用したらよいか考えることができる。	【思】 地図の種類とその利用について、球体としての地球上の移動と地図上での表現の特徴を知り、どのような背景でその地図が作成されたのか考察することができる。
	2 時差の求め方	1	地球を球体としてとらえ、時差計算の方法を理解することで、地球上のどんな地点の時間でも出せるようになる。	【知】 地球の球体としての特徴とこれを地図に表現した場合の長所短所、時差の計算法を理解し、その知識を身に付けている。
	3節 地理情報の地図化	1	年少人口割合、高齢人口割合、工業出荷額、農業産出額などから日本の階級区分図を作成し、日本の各県や地域における特徴を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。	【技】 地理情報を統計地図化するにあたり、どのような表現方法を用いれば適切な地図が作れるかを考察し、階級区分図にまとめることができる。
	【単元を貫く課題】 生徒が地形図の読み取りを通じて、身近な地域の特徴に対して学習を深め、防災意識を高められるようになる。			
	【単元を貫くMQ】 大雨により家の付近が危険なようです。あなたは何をしますか？1～5まで順位をつけましょう。			
	2章 地図の活用と地域調査	3	身近な地域で起きた豪雨災害から、なぜ豪雨災害が起きたのか地形的な理由を地形図の読図から行いその理由を追求し、生徒の身近な地域では豪雨によるどのような災害が起こりうるか考えることができる。	<p>【関】 居住する地域の防災について意識をもち、知識をもとにして、ハザードマップを進んで作成することができる。</p> <p>【思】 様々な自然災害がどの地点でどのように起こるのか、資料をもとに地形図上から考察をすることができる。</p> <p>【技】 可児市で起こった豪雨災害をもとに、どうして災害が起きたのか地形図などから読みとり、また生徒の身近な地域では豪雨によりどのような災害が起こりうるのかハザードマップに表すことができる。</p> <p>【知】 地形や気候の既習知識を生かし、岐阜県や居住する地域の特徴を知り、また読図を通して地形図の読み取りの際の知識を身に付ける事ができる。</p>

月	単元			評価規準	
	単元と項目	時数	学習の目標(ねらい)及び学習内容		
5 6 7 8	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察	【単元を貫く課題】生徒が気候がなぜそうなるのか論理的に説明ができるようになる活動を通じて、事象を複合的な見地で考察できるようになる。			
		【単元を貫くMQ】あなたの移住先を見つけましょう。			
		1章 自然環境 1節 世界の地形 1 世界の大地形 2 外的営力によってつくられる小地形 3 その他の地形	8	世界の大地形、小地形がどのような成りたちでできているのかを考察する過程を通じて、大地形・小地形がどのような営力で形成されているのかを論理的に考えることができる。	<p>【関】 世界の大地形や小地形について、どのような営力をもとに地形が形成されたのか進んで追究しようとし、また地形と人間生活との関わりを防災や産業の面などから意欲的に捉えようとしている。</p> <p>【思】 世界の大地形や小地形について、どのような営力をもとに地形が形成されたのかを分布や人間生活との関わりの中から多面的・多角的に考察し、その思考の過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>【技】 世界の大地形や小地形について、どのような営力をもとに地形が形成されたのか諸資料から適切なものを選択し、有用な情報を組み合わせて図表などにまとめることができる。</p> <p>【知】 世界の大地形や小地形について、どのような営力をもとに地形が形成されたのか、系統地理的にとらえる視点や考察方法を理解し、知識を身に付けることができる。</p>
		2節 世界の気候 1 気候の成り立ち 2 世界の気候区分 3 植生と土壌	12	世界の気候について、気候要素と気候因子の関係から、その成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴を理解することで、人間生活と関連させて考えることができる。	<p>【関】 世界の気候について、気候要素と気候因子の関係から、様々な気候が成立する条件を追究し、それらの気候と人間生活や農業との関連について意欲的に捉えようとしている。</p> <p>【思】 世界の気候について、気候要素と気候因子の関係から、どうしてその気候が成立するのかを地形も含めた点から論理的に追究し、その原因を明らかにし、その思考の過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>【技】 世界の気候について、農業などの産業や人間生活との関連を示す諸情報から適切な情報を選択し、有用な情報を組み合わせて図表などにまとめることができる。</p> <p>【知】 世界の気候について、気候要素と気候因子の関係から系統的に理解し、農業などの産業や人間生活との関連性の知識を身に付けることができる。</p>
		3節 日本の自然の特徴と人々の生活 1 日本の地形 2 日本の気候 3 日本の自然災害と防災	2	日本の各地の気候を比較することで、日本の地形が日本の気候にどのように影響を与えているのか興味を持ち、これまでの学習をもとに考察していく過程を通じて、日本の風土の特徴について思考する事ができる、また日本の風土に由来する自然災害に対する防災の在り方を考えることができる。	<p>【思】 日本の地形的な特徴である弧状列島やプレートの狭まる境界に位置する事に起因する様々な特徴について、人間生活との関連性の中で系統的な地理の見方や思考方法を基にして、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。</p> <p>【技】 日本の地形、気候、自然災害などに関連する資料から適切な情報を選択し、地形、気候、自然災害と防災について図表などにまとめることができる。</p>
		4節 環境問題 1 世界の環境問題 2 さまざまな環境問題 3 日本の環境問題	5	環境問題のあらましについて学ぶ学習を通じて、現代世界で起こる環境問題は人間の産業活動などに由来している事に気づき、その原因を追究し、持続可能な開発にはどのようなものがあるか考察することができる。	<p>【関】 環境問題について、世界と日本の現状を知り、自分たちの生活を維持していくために環境に対して大きな負荷がかかっている事を進んで学び、自分たちには何が出来るのか進んで考えようとしている。</p> <p>【思】 環境問題について、既習の地形と気候の学習を生かし、世界と日本の環境問題について原因や分布を多面的・多角的に捉え、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>【技】 環境問題について、現在の様子を写真や図表などの諸資料を活用してデータを収集し、その分布などを図表にまとめることができる。</p> <p>【知】 環境問題について、現代世界ではどのような環境問題が起きているのか理解し、それらと産業と人間生活との関連性の知識を身に付けることができる。</p>

月	単 元			
	単元と項目	時数	学習の目標(ねらい)及び学習内容	評価規準
9	<p>【単元を貫く課題】生徒が産業や貿易の特徴や問題点を論じる活動を通じて、多面的・多角的に事象が捉えられるようになる。</p> <p>【単元を貫くMQ】なぜあなたは米を食べるのか。</p>			
	2章 資源と産業 1節 産業の発達と変化	1	写真資料から、産業の発達と変化について読み取る学習を通じて、様々な視点から論述することができるようになる。	【技】 写真資料から産業の発達や変化について気付いた事や疑問点などを抜き出し、それらの原因や与える影響についてまとめ、適切に論述することができる。
	2節 世界の農林水産業 1 農業の発達と分布 2 世界の農業地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 世界の林業・水産業 5 日本の農林水産業	8	世界や日本の農林水産業の区分や、発達、分布を学習する活動を通じて、農業は気候や地形が密接に関係している事だけでなく、人間活動も大きな影響を与えている事などの多面性に気づき、農林水産業の環境や人間生活に与える影響や今後の農林水産業のあり方など多角的に考察することができる。	<p>【関】 世界の農林水産業について、既習の地形や気候と関連付けながら学習を進め、農林水産業の環境や人間活動に与える影響を意欲的に追究し、捉えようとしている。</p> <p>【思】 世界の農林水産業について、既習の地形や気候との関連性に気づき、また農林水産業のグローバル化や農林水産業の現状を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>【技】 農林水産業の分布や現状について、写真資料や図表などから資料を収集し、農林水産業の現状や影響について適切にまとめることができる。</p> <p>【知】 各農業地域の分布や特徴、その影響について系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>
	3節 食料問題 1 世界の食料問題 2 さまざまな食料問題 3 日本の食料問題	2	世界の食料需給にある偏在性に興味を持ち、なぜそのような偏在性が現状存在するのかを資料を活用して捉え、先進国の抱える問題と役割について考察する過程を通じて、自分たちには何ができるのか考えさせる。	<p>【関】 食料問題について、先進国と発展途上国の食料需給の偏在に気づき、どうしてそのような状況になっているのか意欲的に追究できる。</p> <p>【思】 食料問題について、先進国と発展途上国の食料需給の偏在の背景を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>【知】 先進国と発展途上国がかかえる食料問題についてそれぞれ理解し、また系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>
10	4節 世界のエネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の利用と分布 2 鉱産資源の分布	5	世界や日本のエネルギー資源や鉱産資源の分布や、その利用方法について学習する過程を通じて、エネルギーや鉱産資源には地形が影響をしていることを多面的に考察することができる。	<p>【関】 世界や日本のエネルギー資源や鉱産資源の分布や、その利用方法について関心と課題意識をもち、意欲的に追究できる。</p> <p>【思】 世界や日本のエネルギー資源や鉱産資源の偏在性が、現代世界にどのように影響をあたえているのか多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。</p> <p>【技】 世界や日本のエネルギー資源や鉱産資源の偏在性を、図表やグラフなどを利用して資料を収集し、エネルギー資源や鉱産資源の現状について適切にまとめることができる。</p> <p>【知】 世界や日本のエネルギー資源や鉱産資源の分布や特徴、動向について系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>
	11	5節 資源・エネルギー問題 1 現代世界の資源・エネルギー問題 2 さまざまな資源・エネルギー問題 3 日本の資源・エネルギー問題	3	世界や日本のエネルギー消費の偏在性に興味を持ち、なぜそのような偏在性が現状存在するのかを資料を活用して捉え、先進国の抱える問題と役割について多角的に考察する過程を通じて、自分たちには何ができるのか考えさせる。

月	単元			
	単元と項目	時数	学習の目標(ねらい)及び学習内容	評価規準
12	6節 世界の工業 1 工業の発達と立地 2 世界の工業地域 3 現代世界の工業の現状と課題 4 日本の工業	8	世界や日本の工業について分布や立地について学ぶ過程を通じて、なぜその地点に工業が立地をするのか背景を資料を多面的に活用して気付き、世界や日本の工業の現状や課題について多角的に考察する事ができる。	<p>【関】 世界と日本の工業について分布や立地について関心と課題意識をもち、意欲的に追究できる。</p> <p>【思】 世界と日本の工業について分布や立地についてその背景となるエネルギー資源や鉱産資源、社会背景や市場等から多面的・多角的に考察し、また現代社会のかかえる工業の課題についても考察し、その結果や過程を適切に表現できる。</p> <p>【技】 世界と日本の工業について工業出荷額や立地について統計資料や図表を活用して、その分布や背景を明らかにし、現状や課題について適切にまとめることができる。</p> <p>【知】 世界と日本の工業について分布、立地、動向、課題について系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>
1	7節 第3次産業 1 第3次産業の発展 2 世界の観光業	3	産業別人口割合の第3次産業人口割合が多い地域から、第3次産業の現状と進展に興味を持ち、例として商業や観光業がどのように進展し、現状はどのようになっているのかを多面的に調べる学習を通じて、他の第3次産業に関わる共通のグローバル化・情報化の進展について多角的に考察することができる。	<p>【関】 第3次産業人口割合が多い地域から、共通する背景から第3次産業の進展と現状、展望について関心をもち、意欲的に追究できる。</p> <p>【思】 商業や観光業の進展と現状について学ぶ過程を通じて、グローバル化と情報化の進展について気付き、どのような地域の変化や人間生活の変化があったのか考察することができる。</p> <p>【技】 商業や観光業の進展と現状について写真資料や統計、図表などを用いて、その進展や現状について明らかにし、これらの学習過程を参考に他の第3次産業についてどのような変化があったのか適切にまとめることができる。</p> <p>【知】 商業や観光業などの進展と現状、展望について系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>
	8節 世界を結ぶ交通・通信 1 世界の交通網 2 情報と通信	3	交通や通信の発達は世界にどのような影響を与え、人間生活がどのように変化していったのか時間軸と現状の両面から学習する過程を通じて、今後の交通や通信の発達における展望を考察し、課題を追究することができる。	<p>【関】 交通と通信の発達が世界にどのような影響を与え、人間生活がどのように変化していったかこれまでの進展と現状について関心をもち、意欲的に追究できる。</p> <p>【思】 交通と通信の発達が発展する一方で、交通の発達にともなう環境への影響や都市構造の変化、交通手段が少ない地域と多い地域の差、また情報化の恩恵を受けられる人々と受けられない人々など、交通や通信の発達を多面的に考察することができる。</p> <p>【技】 交通や通信の発達にともなう社会の変化や人間生活の変化を、統計や図表などから読みとり、適切にまとめることができる。</p> <p>【知】 交通や通信の発達が地域や、人間生活に与える影響について系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>
	9節 現代世界の貿易と経済圏 1 私たちの生活を支える貿易 2 現代世界の貿易の現状と課題 3 日本の貿易の現状と課題	2	現在の世界や日本の貿易の特徴を学ぶ学習を通じて、貿易がもつ多面的な特徴や課題があるのか気付き、その課題を克服するためにどのような取組をすべきか考察できる。	<p>【関】 現在の私達の生活を支える貿易について関心をもち、様々な種類の貿易の形態や課題について意欲的に追究できる。</p> <p>【思】 現在の貿易圏や貿易の形態について学ぶ過程を通じて、貿易で発生する課題の背景について考察するとともに、その課題をどのように克服すべきか考察することができる。</p> <p>【技】 世界の国家間や貿易圏間の貿易の統計や図表などから、貿易の特徴や課題を読み取り、適切にまとめることができる。</p> <p>【知】 世界の貿易の特徴や動向について、また貿易圏間の貿易が人間生活に与える影響について系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>

月	単元			評価規準
	単元と項目	時数	学習の目標(ねらい)及び学習内容	
2	<p>【単元を貫く課題】 生徒が世界の人口構成や特色、人口転換などを読み取る学習を通じて、抽象的な統計情報から、具体的な論述ができるようになる。</p> <p>【単元を貫くMQ】 1億人以上の人口を持つ国がアジアに集中するのはなぜか。</p>			
	3章 人口、村落・都市 1章 世界の人口	2	世界人口と面積のアンバランスさから、人口が集中している地域の理由を追究する学習を通じて、人口増加と人口減少のメカニズムに気づき、人口の増減や人口転換について理解することができる。	<p>【関】 世界人口や人口転換について関心をもち、人口問題や人口転換に対する課題意識をもって意欲的に追究できる。</p> <p>【思】 世界人口のかたよりや人口増加、人口転換、人口移動について学ぶ学習を通じて、それらが発生する背景について考察するとともに、それらが起こす課題をどのように克服できるか考察することができる。</p> <p>【技】 人口が集中している地域や人口転換に関する資料から、人口ピラミッドの読み方を習得し、適切にまとめることができる。</p> <p>【知】 人口分布や人口転換について系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>
	<p>【単元を貫く課題】 生徒が産業や人口などを統合して、世界の人口問題の背景を考察し、今後の課題と自分の生活の仕方を考えることができる。</p> <p>【単元を貫くMQ】 江戸時代末3300万人がいましたが、現在は4倍の1億2000万人に増えました。急激な人口増加にはどんな影響があったでしょう。</p>			
3	2章 人口問題 1 世界の人口問題 2 発展途上国の人口問題 3 先進国の人口問題 4 日本の人口問題	3	世界の人口問題を学習する過程を通じて、発展途上国、先進国、日本がかえる人口問題の背景に気づき、どのような解決方法があるのか考察することができる。	<p>【関】 人口問題は自分たちに直接問題であると認識し、どのような背景があり、どのような解決が望ましいのか課題意識をもって意欲的に追究できる。</p> <p>【思】 既習の学習内容をいかし、発展途上国や先進国における人口問題の背景を考察し、それらに対する課題解決を考えることができる。</p> <p>【技】 人口爆発や少子高齢化、女性の年齢別労働力率に関連する統計や図表を読み取り、適切にまとめることができる。</p> <p>【知】 発展途上国、先進国、日本の人口問題について系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>
	<p>【単元を貫く課題】 生徒が都市や村落がどのように成立したか、地形や人間生活から考察し、自身が居住する地域の成り立ちについて考えることができる。</p> <p>【単元を貫くMQ】 あなたは市長です。住民たちのリクエストを聞き、住みやすい市を作ろう。</p>			
3	3章 村落と都市 1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の機能と生活 4 日本の都市	6	村落と都市について、どのような理由から形成されたのか背景を探る学習を通じて、都市形成には地形や人間生活の理由がある事に気づき、自分の居住する地域の成り立ちを地形図から考えることができる。	<p>【関】 村落と都市の形成の背景や自分の居住する地域の成り立ちについて、課題意識をもって意欲的に追究できる。</p> <p>【思】 村落と都市の形成が地形や人間生活など多角的な理由で成立していることに気づき、具体的に考察した内容を適切に表現できる。</p> <p>【技】 都市の地形図の新旧比較や地形図、また図表や各種統計から村落や都市の形成の背景を読み取ったり、都市構造について適切に読み取ったりできる。</p> <p>【知】 村落と都市の形成、都市構造等について、系統地理的に捉える視点や考察方法を理解し、その知識を身に付けることができる。</p>

第1次 (1時間扱い)	【1 農業の発達と分布】					
	ねらい：農業の自然条件や社会条件を学ぶ学習を通じて、人類はどのようにして自然的・社会的に不利な地域での農業を発達させてきたのか考察し、現在の農業地域区分について根拠を捉えさせる。					
	MQ 「なぜ遠く離れたイタリアと中国で唐辛子料理があるのだろう」					
	意図 唐辛子は唐揚と同じように「唐」の字がある。これは両者が外国（「唐」とは漠然とした外国を意味するため、厳密な意味での国名「唐（とう）」ではない）から日本へ渡ってきたことを意味する。唐辛子料理は世界各地にあり、その地域の伝統的な料理となっているものも少なくない。しかし、そのルーツは中南米であり、1493年にコロンブスによりヨーロッパに紹介されてのち、1542年にはポルトガル人によって豊後の大友義鎮に献上されている。わずか50年で世界をほぼ1周し、その地に定着した恐るべき伝播力の早い、また強い食材である。この唐辛子料理の伝播を基に、身の回りの食材のルーツを調べることで、それぞれの農業生産物の伝播と地域的共通性を探究する活動につなげる事を意図している。					
	学習内容	関	思	技	知	評価規準
	<ul style="list-style-type: none"> 「農業の起源と伝播」（資料集 P.76）から、農業がどの地域で発生し、どのような伝播をたどったのか、原産地と伝播した先の地域的共通性を調べる。 			◎		① 原産地と伝播した先の地域の気候・地形の共通点を見つけ、自然条件や社会条件と結びつけられる。
	<ul style="list-style-type: none"> 農業がどのような経緯で発達してきたのか理解する。 				○	① 農業が自給的農業から商業的農業へと変化した背景を理解し、ホイットルセイの農業地域区分について知り、その知識を身に付けている。

第2次
(1時間
扱い)

【2 世界の農業地域区分】

ねらい：世界の農業地域区分を学ぶ学習を通じて、農業地域には気候や地形や人間生活とどのような関係があるのか既習の学習内容と連動させて考察させ、どのような類似性や空間的な規則性があるか捉えさせる。

MQ 「なぜ私達にはリヤマ、ラクダやトナカイの肉を毎日食べることができないのか」
 意図 生徒が日常的に食している食肉の多くは、牛、豚、鶏、羊などであり、これらは世界中の多くの地域で飼育されている家畜（家禽）である。しかし、人間が飼育に成功した家畜には他にも多くの種類があり、特にリヤマ、ラクダ、トナカイ、ヤクなどはある一定の地域に生息する家畜である。それらの地域では前述の家畜を日常的に食せても、日本人の食生活にはなじみが薄いことから、地域特有の自給的な性格を持った家畜である事を理解し、そこから自給的な農業とは、流通量が少なく、ある特定の地域以外では需要も少ない農産物を生産している事に気付かせたい。

学習内容	関	思	技	知	評価規準
<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な農業について、系統的に学習し、それらの農業に共通することを空間的、社会背景的な視点から考察する。 		◎			① 伝統的な農業は、自給的な性格を持っている事に気づき、現在も伝統的な農業が行われている地域の多くは、アジアやアフリカ中南部、ラテンアメリカの熱帯地域に存在する事から、それらの地域に共通する社会背景を考察できる。
<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な農業が、どのような地域で、どのように経営されているのか確認する。 				○	② 伝統的な農業の分布や動向などを理解し、その知識を身に付けている。

MQ 「オランダは国土面積が日本の10分の1なのに、農業輸出額では世界第2位なのはなぜだ例1 ろう」

意図 2013年2月の第2回産業競争力会議では、「日本は世界一の農業を目指すため、オランダをモデルに農業を強くする施策を検討すべき」と提言が出された。オランダの貿易額が多い理由は、①農産物輸入量が農業生産量より多く、輸入量の約70%が再輸出される事、②国内消費の少ない事が挙げられる。また輸出先として、EU諸国が全体の約80%を占めていることから、域内貿易が盛んであることもわかっている。しかし、オランダの農業振興の原則はほぼヨーロッパの中央部に位置し、北海に面しているため輸出入に便利であるため、国内の農業を園芸農業等の労働・資本集約型農業への特化している点である。そこで、オランダの農業を周りの国々との関係の中で考察するなかで、低コストで高収益をめざす商業的農業や企業的農業の仕組みや内容について考察をさせることを意図している。

第3次 (1時間扱い)

MQ
例2
「Wolfは善か悪か」

意図 Wolfは東洋と西洋では扱いが異なる動物である。東洋の中国では「狼」と書かれ、「良い獣」の意味である。また日本では「おおかみ」と読み、これは「大神」に通じている。しかし、西洋では「3匹の子ぶた」、「赤ずきんちゃん」に代表されるように、人を襲い最後は懲らしめられる悪者として描かれることが多い。これは東洋と西洋の農業の姿が異なるためである。東洋のアジア地域の自給的稲作を中心とする世界では、Wolfは田をあらす獣を駆逐する善の存在であり、西洋のヨーロッパ地域の混合農業を中心とする地域では、家畜を襲う悪の存在である。このことから、ヨーロッパにおける商業的農業の特徴について考えさせるきっかけとすることを旨とする。

学習内容	関	思	技	知	評価規準
<ul style="list-style-type: none"> 商業的農業、企業的農業について、系統的に学習し、それらの農業に共通することを空間的、社会背景的な視点から考察する。 		◎			② 商業的農業や企業的農業は、工業の発達や貿易の発達によって、近代都市や工業国が食料を必要としたことから発達している事に気づき、現在商業的農業が行われている地域にはヨーロッパやその文化の影響を受けた地域が多いことから、その地域に共通する社会背景を考察できる。また企業的農業では、ヨーロッパなどからの移民の歴史や植民地の歴史がある地域が多いことから、それらの地域に共通する社会背景を考察できる。
<ul style="list-style-type: none"> 商業的農業が、どのような地域で、どのように経営されているのか確認する。 				○	③ 商業的農業や企業的農業の分布や動向などを理解し、その知識を身に付けている。

第4次 (2時間扱い)	【3 現代世界の農業の現状と課題】 ねらい：農業の近代化の中で、発展途上国と先進国のそれぞれが抱える課題を資料から読みとる学習を通じて、現在の農業がかかえる課題の背景を考察し、グローバル化する現代の農業について先進国に住む私達はどのような行動をとっていったらよいか考えることができる。					
	MQ 「日本が東南アジアに求めたものは何だったのか」 意図 太平洋戦争では、日本は真珠湾攻撃よりも2時間も早くの現マレーシアのコタバルに上陸をしていることから、日本は日本を中心とする東アジア・東南アジアのブロック経済圏の構築を目標としていた。そこで、今回の授業では、日本は東南アジアへの進出は何を目的にしていたのか資料から読みとる学習を通じて、東南アジアに見られるプランテーション農業の実態や問題・課題点に気づき、それらが現在どのような状況にあるのかに気づき、自分たちには何ができるのか考察をさせていきたい。					
	学習内容	関	思	技	知	評価規準
本時	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジアでは1939年も2011年も油ヤシや天然ゴムが世界の生産量の多くを占めているのは、自然条件が適合しており、また広大なプランテーション経営があることを読み取る。 			○		② プランテーション農業の農作物である油ヤシ、天然ゴムなどが原産地と異なる東南アジアで大規模に生産されていることから、自然的・社会的な背景について読み取ることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジアの油ヤシのプランテーション経営などの資料の読み取りから、プランテーション農業の課題について考える。 		◎			③ プランテーション農業が抱える構造的な問題から、先進国に住む私達はどのような支援ができるのか自分なりの考えをもつことができる。
第5次 (1時間扱い)	MQ 「『日本は本日ただいまから鎖国します!』と総理が宣言したら、あなたの生活はどうなるでしょう」 意図 日本が鎖国をした場合、人口は7000万人が近いうちに減少することが考えられる。なぜ人口が減少するのかを食料自給率から考え、特に食糧である穀物類の生産地域、輸入先について調べる学習を通じて、農業のグローバル化や国際関係がその国に与える影響について考えることができる事を目指す。					
	学習内容	関	思	技	知	評価規準
	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国やオーストラリアで行われている企業的農業では、穀物メジャーの影響力が大きい事を調べ、農業のグローバル化の実態を確認する。 				○	④ 穀物統計のグラフから、企業的農業を行っている地域の穀物生産量が大きいことを読み取り、現代世界の農業のグローバル化について知り、その知識を身に付けている。
<ul style="list-style-type: none"> 農業の国際化によって、各国（地域）にどのような影響が出たのか調べ、お互いに交流する。 ①日本 農業政策の変化と食料自給率の問題 ②EU 共通農業政策とその問題 ③サントメ・プリンシペ カカオのプランテーション栽培と、食料自給率16.2%の問題 ④トンガ 日本向けのカボチャの需給がトンガに与えている影響の問題 			◎		③ 自分が担当した国の統計や図表、写真資料から農業のグローバル化による影響と問題点を明示し、なぜその問題が起きたのか根拠を明らかにしてまとめることができる。	

第6次 (1時間扱い)	【4 世界の林業・水産業 ・ 5 日本の農林水産業】					
	ねらい：農業の近代化の中で、発展途上国と先進国のそれぞれが抱える課題を資料から読みとる学習を通じて、現在の農業がかかえる課題の背景を考察し、グローバル化する現代の農業について先進国に住む私達はどのような行動をとっていったらよいか考えることができる。					
	MQ 「あなたはどこにどんな別荘を作りますか？」 意図 熱帯林と、冷帯林の2つの写真資料から、どちらに別荘を作るのか構想を立てさせ、自分の別荘の特徴を挙げさせる活動を行う。熱帯林と冷帯林の植生の違いに着目して、両者の樹種の数や、樹木の形状などから、どちらが経済的に効率的であるかを考えさせることで、世界の主要な林業地域の特徴についてつかませることをねらいとしている。また、用材と薪炭材の利用用途について先進国と発展途上国との場合など、多面的に考えさせることも発展内容として考えている。					
	学習内容	関	思	技	知	評価規準
<ul style="list-style-type: none"> 世界の主要な林業産地はどの気候区分であるのか予想を立て、主要な林業産地である理由を既習内容や地図帳などを活用して調べる。 	○				① 主要林業産地の予想に対して、どうしてその予想が正しいのか、根拠を明らかにするために、図表や写真、統計資料などを積極的に活用して調べることができる。	
<ul style="list-style-type: none"> どの気候区分においても、森林資源について課題となっている点がある事に気づき、熱帯林、冷帯林、日本の森林について持続可能な森林開発を行うにはどうすればよいかグループごとで考察し、全体発表を行う。 		◎			④ 持続可能な森林開発に向けて、各地域の森林の抱えるそれぞれの課題に対して、どのような取組をするべきか、生産者と消費者の立場から考察することができる。	
第7次 (1時間扱い)	MQ 「あなたの食べている魚はどこからきたのでしょうか？」					
	意図 事前課題として、生徒に小売店の魚の値札の写真を撮らせ、学校にメールで送付してもらう。この写真を魚種ごとに分類すると、生徒の実生活の場における漁獲種類や量の地域分布（日本・世界）の統計を作成できる。この事から、日本は水産大国だが、また同時に輸入大国であることも考えさせる。また世界の漁獲の約4割が養殖である事も視野に入れて資料を作成し、授業を展開していくことを意図している。					
	学習内容	関	思	技	知	評価規準
	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋北西部漁場、大西洋北東部漁場、大西洋北西部漁場、太平洋北東部漁場、ペルー沖漁場のいずれかについて、好漁場である理由と漁獲の種類、漁獲量の変化、周辺の漁業国の抱える課題の各項目について調べ、グループ交流をする。 	○				② 各漁場が好漁場となる根拠や、その漁場の特徴、課題等について、図表や写真、統計資料などを積極的に活用して調べることができる。
<ul style="list-style-type: none"> 漁獲量が減少している漁場に共通する事を追究し、原因と課題を考察し、現在の水産資源の保護と育成についてまとめる。 		◎			⑤ 世界の漁業と日本の漁業の抱える課題を明らかにし、その課題の背景を図表から考察し、養殖業や栽培漁業の実態と、日本における水産物輸入の実態についてまとめることができる。	

<p>東南アジアにおける現在のプランテーション農業の実態について歴史との比較をすることで全体像を把握する</p> <p>↓</p> <p>1939年と2011年の東南アジアでのプランテーション農業の統計を比較する</p>	<p>② 各視点にそってまとめ、読み取りの結果を確認する</p> <p>視点1 現在の東南アジアの国々はもともと欧米の植民地であった国や地域が多い</p> <p>視点2 1939年の東南アジア地域の農業生産物の世界計における割合は非常に高いものが多い</p> <p>視点3 1939年の東南アジアで仕事をする日本人の多くは、農業、林業、水産業、商業に従事している</p> <p>視点4 1939年の東南アジア地域における日本の会社の多くが、生産地とシンガポールに集中している</p> <p>→ 結論をだす。 日本が世界有数の農業地帯である東南アジアの農業生産物を自由に扱うためには、欧米の植民地に積極的に進出する必要があった。</p> <p>③ 東南アジアのプランテーション農業について確認をする</p> <p>Q なぜ東南アジアに天然ゴムやパーム油などの生産が集中しているのだろうか</p> <p>生徒意見 →</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの気候が適していたのかもしれない ・東南アジアでしか作れない作物なのだろうか ・東南アジアは欧米の植民地だったから、安い労働力を使える ・東南アジアは欧米の植民地だったから、広い土地を自由にできる ・欧米各国は軍事力が発達していたから、無理やり働かせたのかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視点1に関わってまとめる ・ 視点2に関わってまとめる ・ 視点3に関わってまとめる ・ 視点4に関わってまとめる ・ 日本の進出の目的には、市場の獲得を目指したという点があるが、今回のテーマとは異なるため軽く扱う ・ 「東南アジアの農業」、「気候一」（『新詳高等地図』帝国書院）に書き込みをしていく ・ プランテーション農業の規定についての確認 熱帯・亜熱帯 広大な農地 大量の資本 安価な労働力 商品作物 ○ プランテーション農業の農作物である油ヤシ、天然ゴムなどが原産地と異なる東南アジアで大規模に生産されていることから、自然的・社会的な背景について読み取ることができる
--	--	---

第2時	指導の内容	学習内容	指導上の留意点・観点別評価
導入 5分	<p>前時のふり返りを行う</p> <p>↓</p> <p>東南アジアに進出した理由をふり返り、本時の流れをつかむ</p>	<p>① 前時の課題の確認を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進出の原因を追究する場面である事、また東南アジアの農業について課題を追究することを確認する 一人一人に課題追究の意識を持たせる
展開 ② 40分	<p>東南アジアのプランテーション農業の現状について多面的に考察する</p> <p>↓</p> <p>インドネシアやマレーシアのプランテーション農業の問題や課題について資料から読み取る</p>	<p>① FAOSTATから作成した統計資料からA～Cの3つの視点について読み取りをする</p> <p>Q 現在、東南アジアのプランテーション農業はどうなっているのか読み取ってみよう</p> <p>生徒意見 →</p> <ul style="list-style-type: none"> パーム油の生産の割合はインドネシアは高い まだまだ、マレーシアが急激に割合を伸ばしている 天然ゴムの生産の割合はインドネシアは高い まだまだ、タイは急激に割合を伸ばしている コーヒーはベトナムが急激に割合を伸ばしている マレーシアは天然ゴムの割合が急激に減少している <p>→ 予想の交流</p> <p>② パーム油（アブラヤシ）の割合が常に最も高いことから、アブラヤシに着目して追究することを確認する</p> <p>MQ 東南アジアのアブラヤシプランテーションがどのような工夫をして経営を拡大させているのか、またその経営拡大にともなう課題や問題には何があるのか。</p> <p>③ 各資料からわかる事を読み取る</p> <p>資料4 「東南アジア最大のパーム油製造会社」の資料からの読み取り</p> <p>経営工夫 生徒意見 →</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働者の給料を引き下げたり、高いノルマを与えて生産量を維持している 広大な農地に肥料や農薬を大量にまいて、草が生えたり、虫がつかないようにしている 大規模な工場で効率的なパーム油生産がされている <p>課題・問題 生徒意見 →</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもに労働をさせなくてはいけないくらいのノルマが課されている 給料が国の法律違反になっている 農薬による河川の汚染がひどい <p>資料5 「アブラヤシプランテーションの開発」の資料からの読み取り</p> <p>経営工夫 生徒意見 →</p> <ul style="list-style-type: none"> 農場に害を与える動物を駆除したり、入ってこないように工夫をしている オイルパームの農場の広さは1995年から2006年にかけて4倍になっている オイルパームの農場は全てのプランテーション農場の中で一番広い <p>課題・問題 生徒意見 →</p> <ul style="list-style-type: none"> 象やオランウータンが農場開発の犠牲になっている 農場開発でとても広い範囲の熱帯林がなくなってしまった 熱帯林の焼払いの煙は国境を越えて人間にも害を与えている <p>資料6 「パーム油生産国と消費国」の資料からの読み取り</p>	<ul style="list-style-type: none"> 以下の3つの視点を提示して読み取りを行う A 1939年も2010年も世界的に高い割合を示すプランテーション作物 B 1939年から2010年にかけて急激に割合を増やしたプランテーション C 1939年から2010年にかけて急激に割合を減らしたプランテーション作物 パーム油製品の紹介をするとともに、世界全体の生産量が急増しているにもかかわらず、依然として割合が高いことから課題意識をもたせる アブラヤシプランテーションについて表現した各資料を、教室内に分散配置し、生徒が交流しつつ資料から読み取りができるように企図する インドネシアで最大級のオイルプランテーション会社が広大な農地を持ち、多額の利益を上げている事や、財閥の一角であり、華人の経営する企業である事、労働者の厳しい生活や児童労働の様子などを読み取る アブラヤシプランテーションが熱帯林を開発して建設されている事、多くの野生動物が被害に合っている事などを読み取る パーム油は現在世界中の植物油の30%を占める重要な製品である事、また消費国の多くは発展途上国である事、先進国でも熱帯林の破壊について反対の声が上がっている事などを読み取る

		<p>経営工夫 生徒意見 →</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーム油は世界中の植物油の中で最大の生産量となっている ・パーム油は先進国だけではなく、発展途上で大量に使われている ・私達の生活には無くてはならない油になっている <p>課題・問題 生徒意見 →</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パーム油の生産はインドネシアとマレーシアに偏りすぎている ・ネスレに対して人々がデモを起こしている ・先進国だけではなく、世界中で取り組まなくてはいけない問題 <p>④ 農場開発の事例と生産量増減に関わる事例を紹介して説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入試でポイントとなる以下の2点も解説しておく <ul style="list-style-type: none"> ①国の政策の影響 ベトナムのドイモイ政策によるコーヒー生産量の増大の紹介 ②国際関係の影響 マレーシアとタイの天然ゴムとアブラヤシについての紹介
<p>まとめ 5分</p>	<p>本時のまとめを自分の言葉でまとめる</p> <p>↓</p> <p>終わった生徒から補完用のワークに取り組む</p>	<p>① それぞれの資料から読みとった事を統合し、プランテーション農業にはどのような問題や課題があるのか考察する。またその問題や課題に対して、私達には何ができるのか自分なりの考えをもつ</p> <p>Q 東南アジアのプランテーション農業の問題や課題には何があり、私達には何ができるのか考えてみよう</p> <p>生徒意見 →</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私達もパーム油使用に関するデモをできる ・どんな油が使われているのかもっと知る ・きちんと法が守られるように働きかける ・パーム油に代わる油を開発する ・食べ物や油をもっと大切にする <p>② まとめが終わった生徒から、今日の基本知識のまとめをワークシートに行う</p>	<p>◎ プランテーション農業が抱える構造的な問題から、先進国に住む私達はどのような支援ができるのか自分なりの考えをもつことができる</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 極力自力でできることを求めるが、学校では分からない事を分かるようにすることが目的なので、調べたり相談することも認める

() 組 () 番
 名前 ()

Q 東南アジア地域におけるパーム油の生産割合が高いままなのはなぜか、またその農場にはどんな問題や課題があるのか資料から読みとってみよう。

資料 4 東南アジア最大のパーム油製造会社		資料 5 アブラヤシプランテーションの開発		資料 6 パーム油生産国と消費国	
資料番号	経営の工夫の読み取り	資料番号	経営の工夫の読み取り	資料番号	経営の工夫の読み取り
資料番号	問題や課題	資料番号	問題や課題	資料番号	問題や課題

東南アジアのオイルパームプランテーション農業の課題や問題点は…

であり、そのために私達には…
 ができる。

本日おさえておく基礎知識 ※上のまとめが終わった人から課題に取り組む。ほとんど今日と既習の知識でできる。相談 O.K.

東南アジアのプランテーション農業における農作物

- [] : 原産地 中米～南米 気候 [] 気候
 ⇒主産地 : コートジボワール、インドネシア、ガーナ

- [] : 原産地 エチオピア高原 気候 [] 気候
 ⇒主産地 : ブラジル←熱帯草原 : []、土壌 : []
 ベトナム←国家政策 : [] 政策、インドネシア

- [] : 原産地 ギニア湾岸 気候 [] 気候
 ⇒主産地 : インドネシア、マレーシア、タイ

- [] : 原産地 ブラジル北部 (パラ州) 気候 [] 気候
 ②マレーシアの代わりに生産増加 ① [] 年代の生産転換
 ⇒主産地 : タイ、インドネシア、マレーシア

- [] : 原産地 東南アジア 気候 [] 気候
 ⇒主産地 : エクアドル、コロンビア、フィリピン

東南アジアの旧宗主国

- マレーシア、ミャンマー : 宗主国 []
 - ベトナム、カンボジア : 宗主国 []
 - インドネシア : 宗主国 []
 - フィリピン : 宗主国 []
-] 共通点
 現在の国の多くが欧米の []

授業の感想 (各設問でどちらかに○)

今回の授業は…	楽しかった	楽しくなかった
今回の授業は…	内容が理解できた	内容が理解できなかった
今回の授業で…	プランテーション農業への考えが変わった	プランテーション農業への考えが変わらなかった

地図読み取りのための資料

- ・佛領印度支那（ふつりょういんどしな）
→フランス領インドシナ
→現在のベトナム、カンボジア、ラオス

- ・泰（たい）
→タイ
→1939年当時、東南アジアでは唯一の独立国

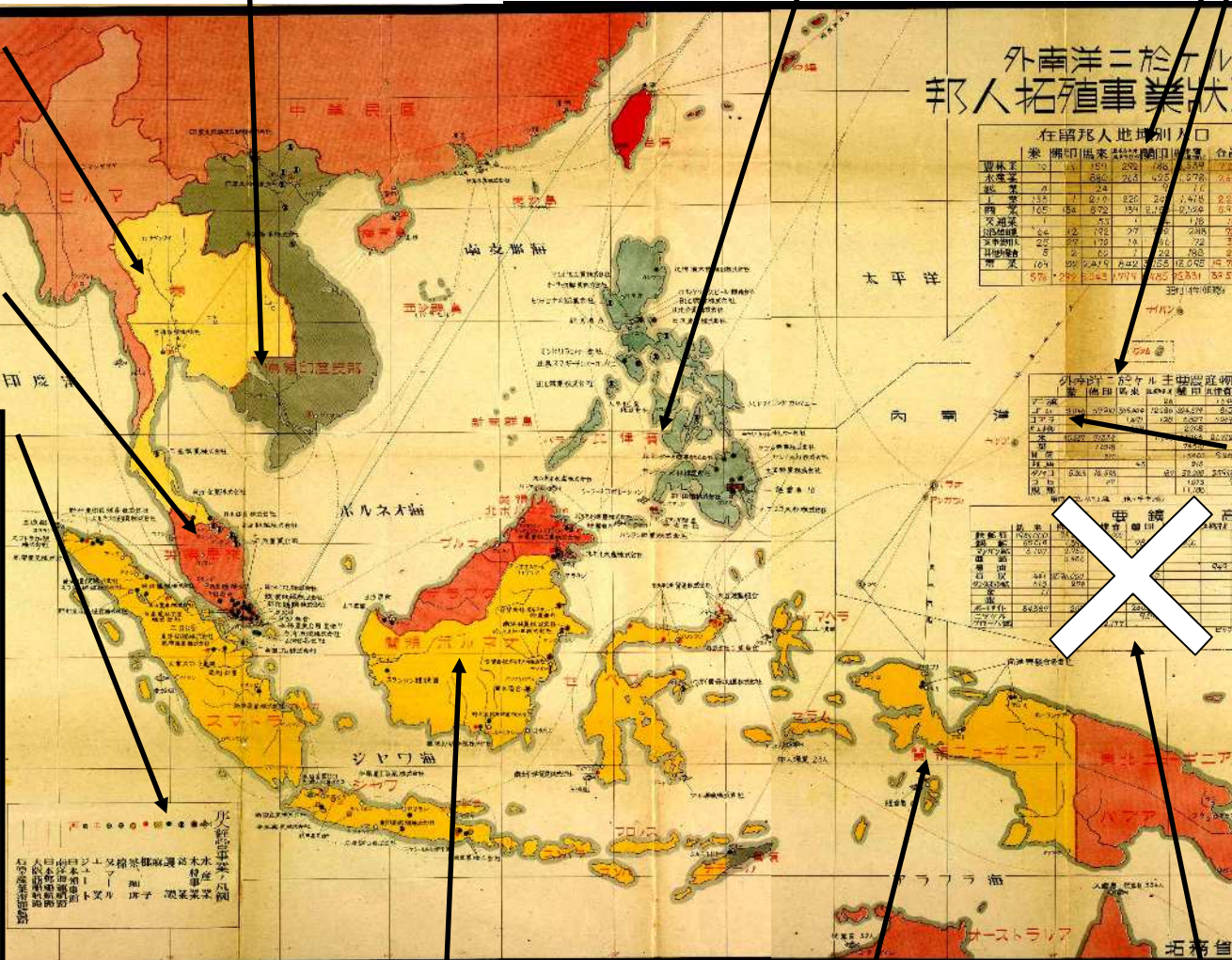
- ・英領馬來（えいりょうまい）
→イギリス領マレー
→現在のマレーシア

- ・護謨（ごむ）
→ゴム
- ・椰子（やし）
→ヤシ
- ・茶、珈琲（こーひー）
→茶、コーヒー
- ・棉（めん）
→綿花
- ・ダマール
→樹木から採取される天然樹脂
- ・日本領事館
→日本政府の出先機関
- ・～航路
→日本にある船舶会社の航路

凡例

- ・地図中の用語（よみかた）
→意味や現代語訳

- ・比律賓（ふいりぴん）
→アメリカ領フィリピン



- ・泰（たい）
→タイ
- ・佛印（ふついん）
→フランス領インドシナ
→現在のベトナム、カンボジア、ラオス

- ・馬來（まれい）
→イギリス領マレー
→現在のマレーシア

- ・北ボルネオ
→現在のマレーシア

- ・蘭印（らんいん）
→オランダ領インドシナ
→現在のインドネシア

- ・比律賓（ふいりぴん）
→アメリカ領フィリピン

- ・マニラ麻
→フィリピン原産の繊維原料
- ・ゴム
→重要な工業原料
- ・コプラ
→ココナツの脂肪分 化学原料
- ・パームオイル
→アブラヤシからできる植物油 酸化しにくく食品の味を変えない安価な油
- ・甘藷（かんしょ）
→サトウキビ 砂糖の原料
- ・核油（かくゆ）
→アブラヤシからできる植物油 パームオイルとは違う
- ・タバコ
→嗜好品作物
- ・コーヒー
→コーヒー 嗜好品作物
- ・規那（きな）
→薬品原料 解熱・鎮痛効果

- ・蘭領ボルネオ
→オランダ領ボルネオ
→現在のインドネシア
ボルネオ島

- ・蘭領ニューギニア
→オランダ領ニューギニア
→現在のインドネシア
ニューギニア島西部

- ・主要産産高
→今回は農業についてなので読み取りはしない

地図の地名 現代語訳	1939年	1939年		1939年		1939年	1939年	1939年	原産国や原産地域 と推測されている地域
	泰	佛領印度支那	英領馬來	北ボルネオ・サワラク	蘭印	比律濱	世界合計		
	タイ	フランス領インドシナ		イギリス領マレー		オランダ領インドシナ	アメリカ領フィリピン		
マニラ麻				1.6%		● 98.4%	0.1	千トン	フィリピン
天然ゴム	5.4%	6.1%	39.7%	1.3%	● 35.4%	0.1%	94.0	千トン	ブラジル北部 (アマゾン川流域)
パーム油			11.0%		● 44.0%		0.5	千トン	西アフリカのギニア湾岸 ※植物名はアブラヤシ
サトウキビ		0.2%			9.0%	5.4%	17.3	千トン	ニューギニア島とその近くの島々
茶		2.2%			14.7%		50.0	千トン	中国雲南地方
タバコ	0.4%	0.7%		0.0%	2.5%	1.7%	200.0	千トン	南アメリカ (ボリビア〜アルゼンチン北部)
コーヒー		0.1%		急激上昇	4.8%		0.2	千トン	エチオピア高原

急激上昇

急激減少

高い割合を維持

高い割合を維持

現在の国名	2010年	2010年			2010年	2010年	2010年	2010年	世界合計
	タイ	ベトナム	ラオス	カンボジア	マレーシア	インドネシア	フィリピン		
マニラ麻							● 67.2%	90	千トン
天然ゴム	→ 31.2%	7.2%		0.4%	-----→ 9.0%	→ 31.3%	1.0%	10,974	千トン
パーム油	2.9%				→ 37.7%	● 47.8%		45,097	千トン
サトウキビ	4.1%	0.9%				1.6%	2.0%	1,685,445	千トン
茶	1.5%	4.4%				3.3%		4,518	千トン
タバコ	0.8%	急激上昇				2.7%		7,114	千トン
コーヒー		→ 13.2%				9.6%	1.1%	8,359	千トン

資料 4 東南アジア最大のパーム油製造会社

シナール マス アグロ リソーシズ アンド テクノロジー 株式公開会社

「Sinar Mas Agro Resources and Technology Tbk」

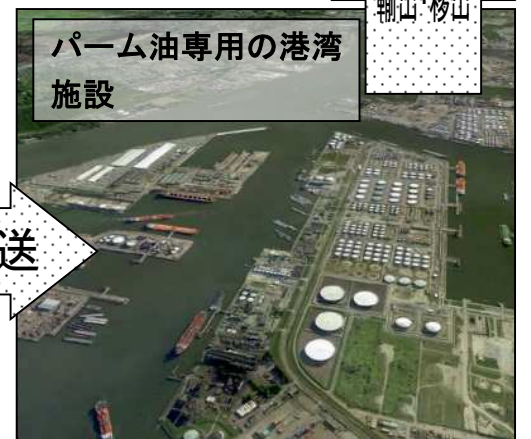
1 本社施設 (ジャカルタ)



2 シナールマス本社(グループ本社)



3 オイルプランテーション→パーム油への製造



輸送

輸送

輸出・移出

4 プランテーション労働者

インドネシア 北スマトラ州の場合

北スマトラ州の法律上の最低賃金	34万 500ルピア
プランテーション労働者平均賃金	26万5,000ルピア

賃金が最低賃金を下回る理由
 保障費や、ケガや病気になった際の医療費、子どもの進学費用などで賃金を会社から約22%カットされている。また給料明細は英語で記してあることが多く、ほとんどの労働者は英語が読めないため、不正や意見があっても意見を言えない。

労働内容
 多くの場合、歩合制(1kg単位)だが、ノルマも課せられており、ノルマに到達しないと賃金から罰金を徴収されるため、妻子と共に1日平均12時間労働をする必要がある。



落ちたアブラヤシの実を拾うのが子どもの仕事
 多くの子どもは小学校を途中でやめてしまう。お金もかかるし、家族労働に参加できないため。しかし、子どもは学校へ行くよりも親とずっと一緒にいられるため、親の後を喜んでついて歩き、実を拾う。親も子どもを学校へ行かせる必要を感じていない。親自身もこの子どもと同じように学校へ行かず、プランテーションで自分の親の手伝いをしていたからだ。



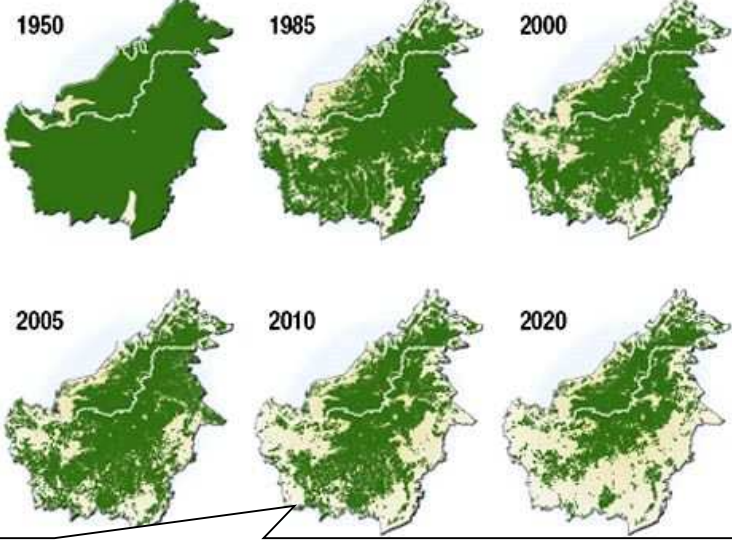
アブラヤシの消毒
 消毒液は猛毒なので、このようなスタイルで行う。しかし消毒液の90%は毎日の雨により川へ流出してしまう。川は消毒液に汚染され、魚は食べられなくなった。

シナール マス アグロ リソーシズ アンド テクノロジー 株式公開会社 Sinar Mas Agro Resources and Technology Tbk

アブラヤシ直接作付面積 (インドネシア国内のみの数字)	139,000 ヘクタール (1,390km ²) 参考: 岐阜市 202.9 km ² 各務原市 87.77 km ² 羽島市 53.64 km ²
アブラヤシ管理作付面積 (インドネシア国内のみの数字)	464,600 ヘクタール (4,646 km ²) 参考: 岐阜県 10,620 km ² 愛知県 5,154 km ² 三重県 4,017 km ²
2012年 総営業収益	27,526,306 インドネシアルピア (単位 100万) 参考: 約 2361 億円
2012年 総純利益	2,151,528 インドネシアルピア (単位 100万) 参考: 約 184 億円
会社説明	シナール・マス・グループ (SMG) [中国名は「金光公司」] はサリム、アストラに続くインドネシア第三の企業集団である。業種は主に油脂、製紙および関連する不動産、農園など多岐にわたる。翼下企業は三百といわれ、経営権支配をもっているのは二百社。SMGは華人(華僑)である黄奕聡(エカ・チプタ・ウィジャヤ Eka Tjipta Widjaya)によって1960年代の食料油から出発して1972年に紙・パルプに進出した。日本の大阪市にある文具・学用品メーカーのキョクトウ・アソシエイツもグループ傘下の企業である。

資料5 アブラヤシプランテーションの開発

1 アブラヤシプランテーションの広がり



①ボルネオ島の開発（2020年は想定）
 緑色は熱帯林 白色はプランテーションなどの開発地域

表1 主要プランテーション作物の農園面積(単位:1000ha)

	オイルパーム	ココナツ	天然ゴム	コーヒー	カカオ
1995年	1,651	3,723	3,425	1,159	554
1996年	1,885	3,736	3,517	1,079	619
1997年	2,922	3,668	3,516	1,167	527
1998年	3,562	3,675	3,377	1,172	520
1999年	3,899	3,680	3,632	1,122	690
2000年	4,181	3,697	3,595	1,385	799
2001年	4,718	3,898	4,132	1,323	867
2002年	5,067	3,885	3,319	1,376	945
2003年	5,283	3,864	3,291	1,300	1,045
2004年	5,717	3,797	3,262	1,304	1,091
2005年	5,949	3,804	3,279	1,255	1,167
2006年	6,319	3,818	3,309	1,263	1,192

注: 農園面積の数値は大規模農園面積と小規模農園面積の合計。
 出所: Statistik Indonesia各年版のプランテーション農園面積の表から抜粋。

2 熱帯林の開発



地上からみると



①掘削、整地
 等高線にそって熱帯林を伐採または焼却して整地



②川を境にしたアブラヤシプランテーションと熱帯林
 写真右側が元々の熱帯林、写真左側がアブラヤシプランテーション。樹木の量や面積はどうか。



③熱帯林の焼き払い
 数年前までは害虫駆除もかねて、熱帯林を焼きはらってアブラヤシプランテーションを建設していた。

④日本のニュース映像
 さすがにこの大規模な焼き払いは日本でもニュースになりました。

3 生物たちのすみかの破壊



⑤森の老人「オランウータン」
 ボルネオ島のオイルプランテーション建設予定地で発見、捕獲。



⑥ボルネオコビトゾウの親子
 ボルネオ島のアブラヤシプランテーション農場主により毒殺された野生の象の親子。2013年にも10数頭の群れが殺されましたが、日本では全くニュースになりませんでした。

28.02.2006
 (c) WWF Riau Indonesia

資料6 パーム油生産国と消費国

1 世界の植物油生産量

世界の植物油生産量の推移

(単位：千トン)

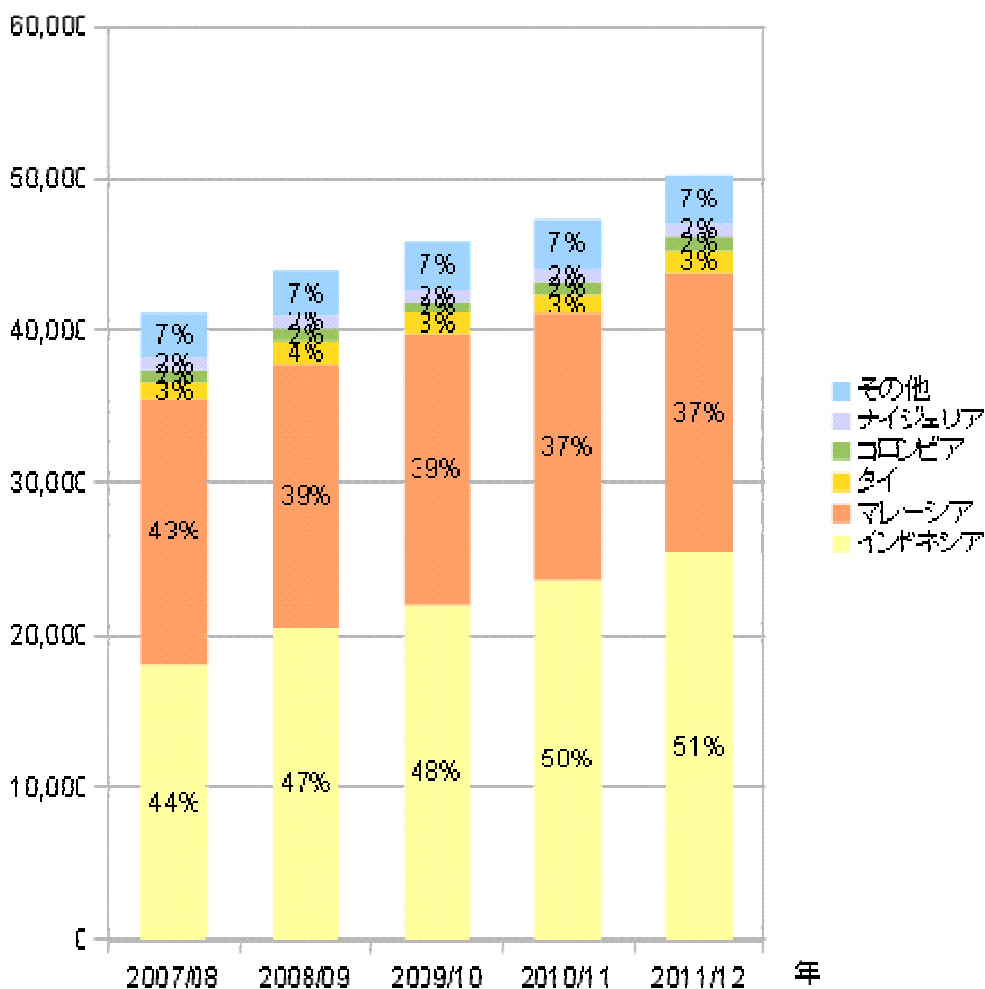
	2004/05	2005/06	2006/07	2007/08	2008/09	2009/10	2010/11	2011/12 (予測)
大豆油	32,823	34,856	36,473	37,673	36,010	38,887	41,384	41,724
菜種油	15,934	18,153	18,462	19,548	21,339	23,745	23,620	23,639
ひまわり油	9,441	11,050	11,349	10,121	12,866	12,620	12,446	14,631
落花生油	4,487	4,555	4,048	4,272	4,245	4,083	4,013	4,034
綿実油	4,981	4,905	5,087	5,138	4,815	4,440	4,749	5,128
ごま油	862	864	861	780	819	870	864	861
とうもろこし油	2,089	2,228	2,312	2,366	2,305	2,352	2,393	2,417
オリーブ油	3,078	2,712	2,917	2,880	2,888	3,288	3,349	3,587
パーム油	33,619	36,310	37,920	42,884	44,393	46,060	49,123	51,488
パーム核油	3,965	4,234	4,376	4,937	5,115	5,285	5,509	5,824
やし油	3,164	3,240	3,178	3,252	3,109	3,634	3,101	3,119
あまに油	626	695	694	574	524	599	568	578
ひまし油	540	518	527	601	548	600	646	713
合計	115,609	124,320	128,204	135,026	138,976	146,463	151,765	157,743

資料：ISTA Mielke社「Oil World誌」

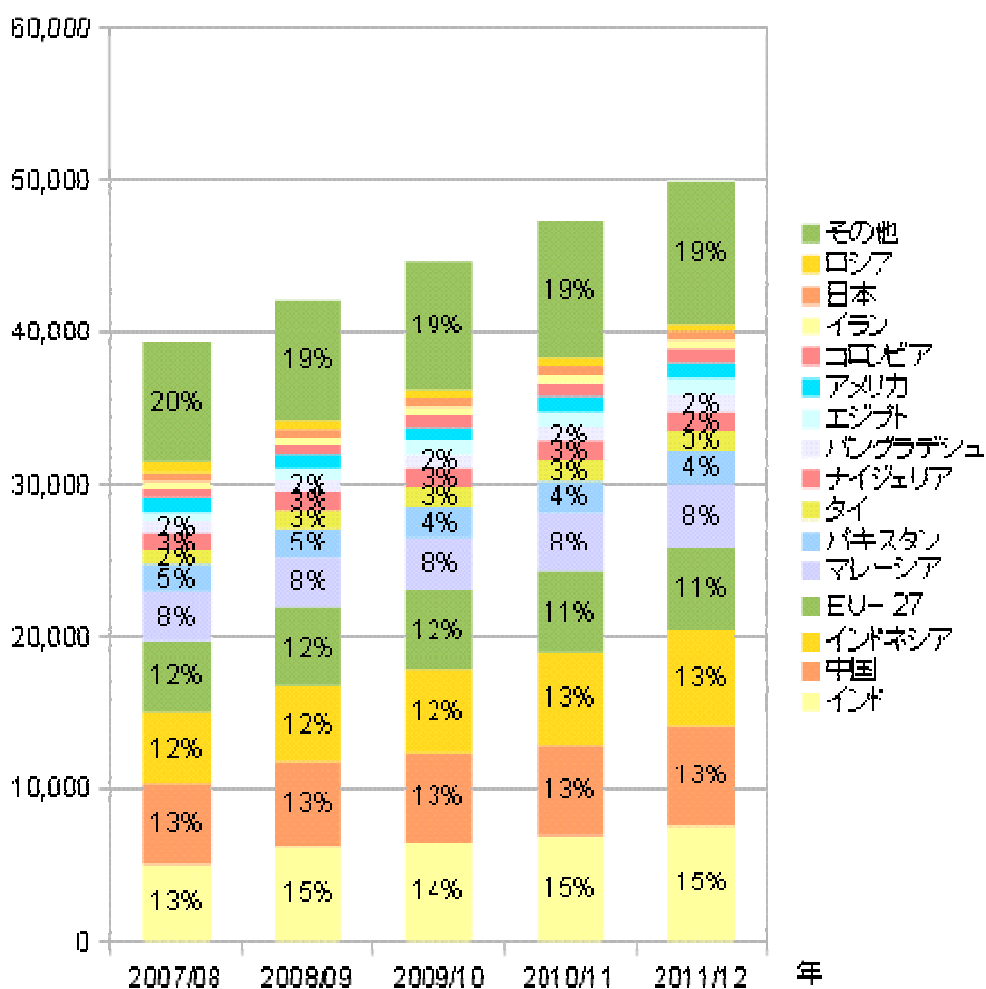
2 パーム原油生産量

3 パーム原油国別消費量

世界のパーム油(生産量)



世界のパーム油(消費量)



4 先進国の動き

①ネスレ前でデモ活動をする参加者
ネスレの商品がオランウータンに被害を与えている。また森林破壊を行っているとして、デモ活動が行われた。その結果が右の記事。→



NNA.ASIA インドネシアの経済ビジネス情報

トップ 中国 香港 台湾 韓国 タイ ベトナム ミャンマー マレーシア シンガポール **インドネシア** フィリピン オーストラリア オセアニア インド

経済 車両 I T 家電 食品 医薬 化学 繊維 鉄鋼 製造 農水 資源 公益 金融 商業 建設 運輸 観光 媒体 社会 労働 政治

トップ >> インドネシア >> 食品 >> ネスレも購入中止、環境懸念のパーム油【食品】

インドネシア 2010年3月19日 (金曜日)

ネスレも購入中止、環境懸念のパーム油【食品】

食品世界大手ネスレは17日、複合企業シナール・マス・グループからのパーム油の購入を中止したと発表した。環境団体グリーンピースによる告発を受けたもので、英蘭日用品大手ユニリーバや、米クラフトフーズに次ぐ中止となるという。シナール・マス・グループは持続的なパーム油生産のための対策を打つと説明している。

ネスレは声明で、森林破壊を助長する生産方法で製造されたパーム油を購入しないと強調。シナール・マスからの調達分を別の業者に変更したと明らかにした。また、シナール・マスからパーム油を購入しているのは、ネスレ・インドネシアだけで、グリーンピースが指摘するようなグループ内の他国でシナール・マスのパーム油が使われた事実はないと反論している。

グリーンピースは同日に公表した報告書「現行犯逮捕」で、シナール・マスがパーム農園を開発する際に、必要な認可を取得しないなどの違法行為を行い、森林破壊を助長していると主張している。

ネスレはパーム核油をチョコレート製品「キットカット」や乳製品に利用しているものの、主要な原料でないと説明した。ネスレの年間パーム油購入量は32万トンで、世界の生産量4,200万トンの0.7%という。世界生産の9割はインドネシアとマレーシアが担っている。

資料5 本実践後の生徒の変容

A 本実践後の授業感想より

今回の授業は	楽しかった	80.0%
	楽しくなかった	0%
今回の授業は	内容が理解できた	80.9%
	内容が理解できなかった	1.9%
今回の授業で	プランテーション農業への考えが変わった	78.1%
	プランテーション農業への考えが変わらなかった	4.8%

※各項目の合計が100%とならないものは、欠席者や授業評価までできなかった生徒がいたため

B 考査結果より

問題	観 点	出 題 の 意 図	正 解 率	
1	知識・理解	東南アジアにおける農業の地誌的な特徴は、熱帯や欧米による植民地支配にあることから、その基礎知識を問う問題を作成した。	51.2%	
2			21.4%	
3	思考・判断・表現	問題（1）の基礎知識が分かれば、タイがAw気候である事は推測できる。また既習内容からサトウキビが乾季を必要とする熱帯プランテーション作物である事を結びつけて思考すれば解答できるため、思考・判断・表現を問う問題を作成した。	34.3%	
4	資料活用の技能	各統計と地図を組み合わせ、また地図上の気候区分や地形からもどのようなプランテーション作物が栽培されているのか資料を活用する能力を問う問題を作製した。	41.4%	
5	関心・意欲・態度	プランテーション農業における課題と解決案が論理的に、また無責任な解決案ではなく、論拠を明らかにして述べられているかに関心・意欲・態度の高さを問う問題を作製した。 課題1 農園労働者の厳しい生活・労働環境 課題2 プランテーション作物の栽培による環境・生態系の破壊 課題3 プランテーション農業に頼るモノカルチャー経済による国家的経済の不安定さ	未回答	21.4%
			課題1	31.4%
			課題2	43.6%
			課題3	3.6%

Aから、授業後の感想としては多くの生徒が授業内容に興味をもち、主体的に学習活動に参加したことが読み取ることができる。また内容であったプランテーションについてもほとんどの生徒が認識を改め、パーム油の消費者たる私たちには何ができるのか具体的な行動案を示していた。考えが変わらなかった生徒に後日リサーチをした所、前から知っていたので考えが変わらなかったという回答を得た。しかしBの内容の定着を図る点では、授業でまとめをとる時間が少なくなってしまったこともあり、基礎知識の定着が完全でなかった為に思考・判断・表現の観点では大変低い値となってしまった。またプランテーションの課題についても興味関心の内容に大きくばらつきが見られたため、今後の授業での資料作成において参考にしていきたい。

今後の課題と改善点

・授業後のふり返りの内容が薄い	→	項目や質問を十分に吟味した振り返り項目を作成する
・基礎知識の定着が弱い	→	終末で小テスト等を行い基礎知識の定着を図る
・生徒の考察をまとめる時間がない	→	授業の構造を再設計し、まとめの時間を確保する
・生徒の読み取り・考察に偏りがある	→	資料作成では内容の公平性・公正性を十分に吟味する
・交流の集約を図るべきだった	→	資料毎に着眼点や考察できることを生徒意見を緩用しまとめる

資料6 本実践後の評価問題例

本例題は授業で学習した事を中心に、既習の内容を含めて出題した。また観点別テスト作成を行う状況を想定して、観点別に問題作成を行った。

問題番号	観 点	出 題 の 意 図
1 2	知識・理解	東南アジアにおける農業の地誌的な特徴は、熱帯や欧米による植民地支配にあることから、その基礎知識を問う問題を作成した。
3	思考・判断・表現	問題（1）の基礎知識が分かれば、タイが Aw 気候である事は推測できる。また既習内容からサトウキビが乾季を必要とする熱帯プランテーション作物である事を結びつけて思考すれば解答できるため、思考・判断・表現を問う問題を作成した。
4	資料活用の技能	各統計と地図を組み合わせ、また地図上の気候区分や地形からもどのようなプランテーション作物が栽培されているのか資料を活用する能力を問う問題を作製した。
5	関心・意欲・態度	プランテーション農業における課題と解決案が論理的に、また無責任な解決案ではなく、論拠を明らかにして述べられているかで関心・意欲・態度の高さを問う問題を作製した。

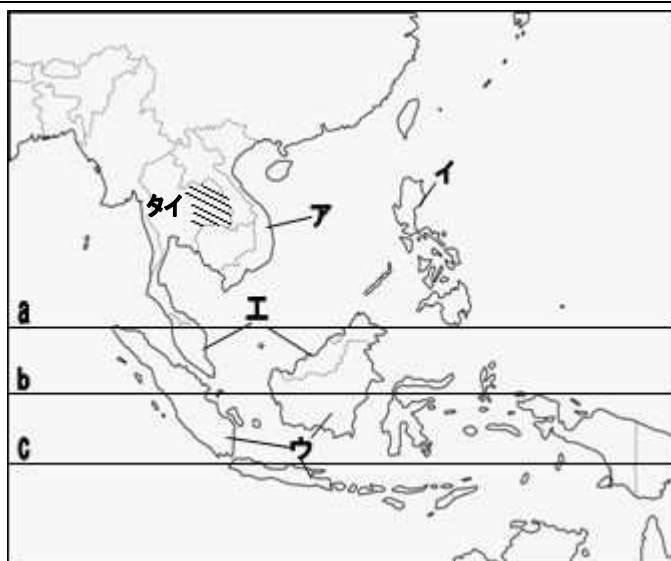
右の地図を見て以下の各問に答えなさい。

問1 地図中の a～c のうち、赤道はどれか1つ選び答えなさい。

問2 地図中のア～エのうち、第2次世界大戦（太平洋戦争）開始前にオランダによって支配されていた国を1つ選び答えなさい。

問3 地図中のタイでは、サトウキビ栽培が盛んでありその生産量は世界4位である。しかし、その生産地域は、東部の山岳地帯が中心である。東部山岳地帯がサトウキビの主栽培地である理由を、気候区分名をあげて説明しなさい。

問4 下の表はあるプランテーション作物の統計であり、表中のア～エは右の地図中のア～エの国名に相当する。下の表中の A～C のプランテーション作物名の組み合わせとして正しいものをア～カから一つ選び答えなさい。（データは世界国勢図絵第23版より作成）



A		
1	インド	3 1 8 9 8
2	中国	9 8 4 9
3	イ	9 1 0 1
4	エクアドル	7 9 3 1
5	ブラジル	6 9 7 8

単位千 t

B		
1	エ	2 1 5 3 4
2	ウ	1 6 9 9 3
3	タイ	1 2 8 8
4	ナイジェリア	1 0 8 7
5	コロンビア	8 0 0

単位千 t

C		
1	ブラジル	2 8 7 4
2	ア	1 1 0 6
3	ウ	8 0 1
4	コロンビア	5 1 4
5	インド	2 9 0

単位千 t

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
A	バナナ	バナナ	コーヒー	コーヒー	パーム油	パーム油
B	コーヒー	パーム油	バナナ	パーム油	バナナ	コーヒー
C	パーム油	コーヒー	パーム油	バナナ	コーヒー	バナナ

(5) 以下の表中にあるプランテーション農業における問題や課題から一つ取り上げ、課題番号を解答欄に記し、その課題に対する自分なりの解決案を述べなさい。

プランテーション農業における問題や課題

課題1 農園労働者の厳しい生活・労働環境

課題2 プランテーション作物の栽培による環境・生態系の破壊

課題3 プランテーション農業に頼るモノカルチャー経済による国家的経済の不安定さ

